

令和4年度 第1回 えちぜん鉄道活性化連携協議会 議事録

日 時： 令和5年2月13日（月） 14：00～15：25
場 所： 福井県織協ビル602号室
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長挨拶（勝山市 水上市長）

2 座長指名

規約 第8条第3項により、会長が委員の中から座長（三寺委員）を指名した。

3 議事

規約第8条第2項により、座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告（1）乗車実績等について

えちぜん鉄道より資料説明（報告1資料参照）（えちぜん鉄道 佐々木取締役）

<質疑応答>

○座長

乗車実績は、コロナ前の令和元年度との比較をしているが、前年度比だとどうか。

○えちぜん鉄道

1月の速報値までの数値になるが、前年度比で111%となっており、前年度よりは回復している。

○座長

今年度のえちぜん鉄道を利用した学校行事などはどうなっているか。

○えちぜん鉄道

コロナ前までは、小学校や幼稚園での団体利用が多かったが、コロナ以降は、ほとんど利用されていない。

○委員

えちぜん鉄道沿線サポート団体連絡会議において、毎月、えちぜん鉄道の乗車実績の報告を受けている。コロナ禍で外出自粛されている方が多く、非日常の利用が回復していないのは仕方ないと思う。しかしながら、県内のコロナ感染者数は減少してきており、サポート団体としては、今年こそは活発に活動して利用者を増やしていきたいと思っている。

※他に意見がないことを確認し、報告（１）終了。

報告（２）国への要望の実施について

事務局より資料説明（報告２資料参照）（福井市地域交通課 勝木副課長）

<質疑応答>

○委員

地域鉄道は厳しい状況にあるため、当然の要望だと思う。加えて、最近、国が少子化対策として教育予算を見直すと言っているため、通学定期割引の鉄道事業者負担分についても、地域鉄道の持続可能な経営という観点から、国に補助してもらうよう要望してはどうか。教育予算として、通学定期としては誰もが均等の負担という考え方。えちぜん鉄道だけの話ではなく、全国的な話になるため、今すぐはできないとは思いますが、検討いただきたい。

○事務局

協議会として沿線自治体と協議し、要望に加えるか検討する。

○座長

今の意見について、福井運輸支局の伊藤委員からコメントがあればいただきたい。

○専門委員

今ほどいただいた意見については、中部運輸支局から国土交通省に伝えさせていただく。国としては、毎年度、各種支援メニューや補助要綱の改正など、できるものから行っている。

※他に意見がないことを確認し、報告（２）終了。

報告（３）えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画主要施策進捗状況について

事務局より資料説明（報告３資料参照）（福井市地域交通課 勝木副課長）

<質疑応答>

○委員

ROBAの会として、カーフリーデーを今年は９月２３日に田原町ミューズで開催する。少しでも公共交通を利用してもらえるようPRしたいと考えている。

また、地域鉄道の経営強化として、えちぜん鉄道、福井鉄道、ハピラインふくいとの連携は非常に重要だと考えている。北陸新幹線福井開業には間に合わないと聞いているが、交通系ICカードの導入により、各路線の乗り継ぎ割引等も実施できると思う。資材の共同購入等と合わせて、サービスの向上もブラッシュアップして欲しい。

○座長

「公共交通とまちづくりに向けた意識啓発と利用促進」について、環境フェアもこういった取組みに該当するのか。

○事務局

毎年開催している環境フェアについても、公共交通利用の意識啓発につながっている。

○委員

環境フェアは、多くの市民に啓発するため、集客の面からFBC本社等で開催している。ROBAの会としては、公共交通で行けない、または行くのに困難な場所で環境フェアを開催するのは、いかななものかと指摘しており、開催場所を検討してもらいたいと思っている。

○座長

福井市の環境フェアは福井駅にあるハピテラスで開催しており、開催場所についても整理してもらえたらいいと思う。

○委員

各関係機関が様々な取り組みをして、えちぜん鉄道を支えていることが分かった。勝山市としても参考にさせていただきたい。

コロナ前と比較して、日常利用についてはかなり回復しており、人口減少の中で通学定期などは善戦している。今後は、コロナ前と比較して4分の3まで落ち込んでいる非日常利用をどう伸ばしていくか、北陸新幹線福井開業により、1.2倍、1.5倍に伸ばしていく好機だと思う。非日常の増加に向けて、北陸新幹線の様々な観光キャンペーンにえちぜん鉄道がしっかりとコミットしていく、果実をとっていくことが重要である。福井駅からあわら温泉、大本山永平寺、東尋坊、恐竜博物館などに行くのにえちぜん鉄道を利用してもらうという施策を推し進めて、非日常利用の増加により、我々の日常利用を守るといった観点が重要で、今が大切な時期だと思う。

○専門委員

鉄道利用の促進について、中部運輸局では、コロナで通勤通学の利用が落ち込んだことから、昨年、一昨年に「通勤通学は公共交通で」といったポスターを作成し、各所に掲示させていただいた。また、昨年は「お出かけは公共交通で」といったポスターを掲示させていただき、公共交通の利用促進を図った。

また、北陸新幹線が延伸するが、福井県はインバウンドが少ないため、国土交通省のいろいろな高付加価値のコンテンツを活用して、インバウンドの方にえちぜん鉄道を利用して県内を周遊していただきたい。さらに、えちぜん鉄道だけではなく、バスなどの他の公共交通も併用して周遊していただくことが重要になってくると思う。

○座長

バスがうまく連携していないということは、利用者からよく聞く。新幹線が来るタイミングで改善は考えているのか。

○えちぜん鉄道

新幹線開業に向けて、各関係機関と二次交通の連携について協議している。新幹線のダイヤに合わせて弊社のダイヤも設定することになる。先日も、坂井市と、改定した弊社のダイヤに合わせてバスを走らせて欲しいということを協議した。今後は、今まで以上にしっかり話をしながら連携していきたい。

○委員

コロナ禍で行事ができなかったことから、非日常の利用が減っていると思う。各サポート団体においても、今年度は、それぞれの行事を盛大に行って、利用者を増やしていきたい。

○座長

サポート団体の会員数が少し減っていると聞いているが、是非、盛り上げてもらいたい。

○委員

20年前の廃線危機の時に、一生懸命がんばった方達が高齢になってきており、電車に乗ってイベント等に参加することが難しくなっていることから、会員数は少しずつ減少している。今後は、若い方にもサポート団体に加入してもらい、盛り上げていきたい。

○座長

レンタサイクルについて、たくさんの主体が運営している。利用者にとっては、どこが運営しているかは関係ないため、主体が連携すると、非常に使いやすくなると思う。せめて、沿線市町だけは連携できないか。

○事務局

福井市では、今年度末にドコモのバイクシェアのレンタサイクルを始めて、福井駅や田原町駅にポートを設置する予定である。いただいた意見については、嶺北連携中枢都市圏が実証実験を実施しているMaaSアプリの中で、鉄道と自転車をうまく組み合わせて両方予約できればいいと考えているので、今後、検討していきたい。

○委員

学校関係の利用促進も非常に重要だと思う。現在は、どのような取組みを行っているのか。

○えちぜん鉄道

コロナ前は、課外授業で、主に切符の入鉄体験や車両基地の見学などを組み合わせて、鉄道を知っていただくという取組みを行っていた。

○座長

課外授業での活用については、今後、各自治体の方でも協力をお願いしたい。

○委員

コロナ前と比較して、非日常利用は減少しているが、逆に通勤通学の日常利用は増加している。この要因は、ガソリンの高騰により、自家用車から公共交通にシフトしていると聞いたことがある。非日常利用については、これから北陸新幹線福井開業をチャンスと捉えて増やしていくことが重要であるし、通勤通学の日常利用もまだまだ潜在需要があると思うので、増やしていけたらと思う。

○えちぜん鉄道

明確な数字で把握している訳ではないが、過去にもガソリンが高騰した時には、通勤定期が増える傾向にあった。通学定期については、私立高校が授業料の無償化に伴い生徒数が年々増えており、弊社の鉄道を利用する生徒も増加していると考えている。

○座長

回数券についてはどうか。

○えちぜん鉄道

回数券については、以前からうまく実態を把握できていない券種である。フリー切符や定期券のように目的が統一されていない。学生でも、定期券でなく回数券を購入される方がいらっしゃるし、通勤の方でもカーセーブデー等の目的で回数券を利用される方がいらっしゃる。回数券については、どう利用促進を図ればよいか難しい。

○座長

回数券の実態について、もう少し踏み込んで調査できれば利用促進につながられるかもしれないので、検討してもらいたい。

※他に意見がないことを確認し、報告（2）終了。

その他

○事務局

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正に伴い、えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画で掲げた数値目標については、年度終了後に、数値をとりまとめて、国へ報告することになった。そのため、数値目標の今年度の実績については、4月以降にとりまとめて6月頃に書面協議で皆様にお諮りするので、その際にご意見をいただくようお願いする。

○えちぜん鉄道

昨年度の9月に就任させていただき、初めての出席となる。今日は貴重なえちぜん鉄道を応援する意見をいただき、非常にうれしく思っている。

コロナ禍で非常に厳しい状況であるが、今年度から新しい支援スキームがスタートして、維持修繕費の増額や災害費の枠を設けていただき、えちぜん鉄道としては非常にやりやすくなった。さらには、これからの話だが、交通系ICカードの導入についても支援いただき、新幹線時代に向けてキャッシュレスの幅が広がり、非常にありがたく思っている。

年間を通して見ると非日常利用は落ち込んでいるが、10月という1か月の期間だけ見ると、コロナが落ち着いたことと、旅行支援が始まったことから、コロナ前と比較して利用者が101%となっている。今年の5月に5類になることで、コロナが空けていくという雰囲気が出てくれば、人の動きも出てくると思う。さらに、最近、外国人の利用者も増えてきており、その動きを本格化していけるように、我々としても様々な取組みを行っていきたい。

また、新しい取組みとしては、今夏の恐竜博物館リニューアルに合わせて、行政の支援をいただき、新しく恐竜列車を運行させる予定となっている。北陸新幹線福井開業に向けて準備に取り組んでいくことが非常に重要だと思っている。

さらに、今年は、開業20周年になることから、様々なイベントについても、ギアを上げ

て行っていきたい。

しかし、経費の1割程度を占めている電気料が高騰していることは懸念している。沿線の自治体とよく相談しながら、国への要望の中にもこういった経済対策の項目を追加してもらいたいと思っている。

○委員

最近、全国的に踏切での自動車事故が頻発している。今後、高齢者が増えるため、このような事故は増えると思うが、予防はできないのか。

○えちぜん鉄道

緊急時の押しボタンがついている踏切については、ボタンを押すことで列車の運転士に知らせることができる。しかし、全ての踏切にボタンがついていないため、踏切の視認性を確保することや踏切に記載されている緊急連絡先に電話してもらってほしい。

○委員

非常ボタンを押すと損害賠償を求められると聞いたことがあるが、実際はどうか。

○えちぜん鉄道

弊社としては、損害賠償を求めないため、非常時はボタンを押して欲しい。

※他に意見がないことを確認し、その他 終了。

閉会